



授業と授業外の学びのつながりを意識したり、授業外の学びを授業に生かす経験を重ねたりすることで、子供の学ぶことへの意欲や興味が高まり、「学びの習慣化」を図ることができます。また、授業外でも子供たち一人一人が自ら学びを進めていくことができるように、授業において「学び方」を身に付けさせることも大切です。ここでは、「授業と授業外の学びをつなぐ授業づくり」のポイントと、授業と授業外をつなぎながら自ら学びを進めている子供の姿の例を示します。

授業での学び —こんな場面を仕組みましょう—

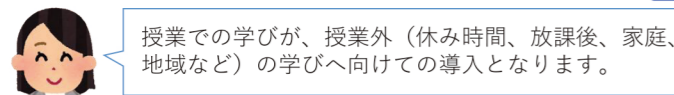
授業外の学び

授業での学び

ポイント①

魅力的な教材（題材）と出合わせる

子供を魅力的な教材（題材）と出会わせたり、教材（題材）との出会わせ方を工夫したりしましょう。「もっと知りたい！調べたい！」という課題や「なぜ？」という問いが生まれれば、子供は授業外の時間にも自ら学びたくなります。



★課題を自分事として捉えさせることが大切です。そのために、魅力的な教材（題材）から問いや課題をもたせましょう。課題解決に向かって、誰と、どのように調べるのか、自分で見通しをもち、主体的に取り組むことにつながります。

ポイント②

「自己決定」する場面を設ける

授業の中で、子供が自分にとって最適な学習の進め方を考え、自分で決める場面を設けましょう。やる気が高まるとともに、授業外でも自ら学びを進める力の高まりにつながります。

自己決定する内容や方法の例

- 学習計画、課題（練習問題）の内容や量、難易度
- 学習の進め方
一人で、複数で、その時々に応じて相手を決めて
- 対話の相手
同じ考えの相手、異なる考えの相手、教えてもらいたい相手、アドバイスをしたい相手
- 情報を収集する方法
教科書、資料集、web、図書室、インタビュー
- 情報を整理したり分析したりする方法
ノート、ワークシート、学習者用端末

- ★子供の発達段階、学習内容等に応じて、子供が自己決定する場面を段階的に取り入れましょう。
- ★それぞれの学び方の特徴やよさを子供自身に自覚させ、なぜその内容や方法を選択するのか、目的をもって選択できるように支援しましょう。
- ★教師は子供の学びを見取り、困っている時には助言をしたり友達との協働を促したりするなどの支援を行いましょう。

ポイント③

自分を見つめるための振り返りをさせる

自分の学習の進め方や学んだことを振り返り、理解度を確認したり授業外での学びを計画したりする場面を設けましょう。子供は「自分を客観的に把握する力」が高まるとともに、新たな課題の解決に向かって学びを進めることができるようになります。

振り返りの視点→授業外での学びにつなげる例

- 授業の理解度の自己評価
→理解度に応じた復習を考えさせる
- 授業をとおして興味・関心をもった内容
→授業外の学習でも取り組むように促す
- 級友との関わり
→参考になった意見や学び方について、何がよかったのかを考えさせる

- ★学習内容を自分で考えることができない子供には、複数の課題や学習例を提示し選ばせましょう。
- ★帰りの会などの時間に、学習の計画を立てることも考えられます。

ポイント④

次時の学習に目を向けさせる

次時の学習内容を確認し、子供に学習の見通しをもたせることで、子供は、安心して授業に臨むことができるようになります。

次時の学習を確認する方法の例

- 単元の学習計画を確認する
- 振り返りの場面で、子供たちから出た意見の中から、次の学びにつながるような意見を取り上げる

- ★また、見通しをもつことで、子供は必要に応じて予習に取り組もうとするようになります。
- ★予習に取り組むことで、子供が自分の考えをもって主体的に授業に参加できるなどの効果があります。

予習を生かした反転学習という方法もあります。

- 【授業後半】 次の時間の課題を確認する。
- 【授業外】 自分の考えをまとめる。
- 【次の授業】 考えを伝え合う場面から始める。



授業の中で、左のポイントを意識した支援を行うことで、子供は、目的をもって授業外の学びに取り組むことができます。

学習の定着のために復習に取り組む



授業では、計算が上手にできなくて、とても悔しかった。家で復習しよう。

復習をすると、すらすら解けるようになったよ。うれしい！明日の授業もがんばろう。



今日の授業内容は難しかったな。次の定期テストに向けて復習をしておこう。

学習の準備のために予習に取り組む

教科書を読んでみたけど、〇〇がよく分からない。明日の授業で先生やみんなと一緒に考えたいな。



(クラウドに投稿された友達の見聞を見て)
〇〇さんは、わたしの考えとちがうな。明日の授業では、〇〇さんの考えを聞いてみたいな。



予習の取組例

- ・教科書を読む。
- ・大切だと思うことに線を引く。
- ・意味調べなど分からないことを調べる。
- ・次の学習の自分のめあてを考える。
- ・次の学習に対する自分の考えをまとめる。
- ・学習計画をもとに、学習を進めておく。

いろいろな取組が考えられます。



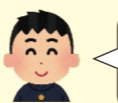
学習を広げ深めるために興味・関心があることに取り組む



新しい解き方を〇〇さんが教えてくれたよ。その考え方に挑戦してみよう。新しい解き方ができるようになるとうれしいな。明日の授業も楽しみだな。



国語の授業で、「海の命」の作者の立松和平さんは、ほかにも「〇〇の命」という作品を書いていることが分かったよ。他の作品を探して読んでみて、みんなに紹介したいな。



理科の授業で学習した、支点、力点、作用点の関係は、僕たちの生活の中でどのように生かされているのだろう。身の回りから探してみよう。

ポイント⑤

授業外の学びを生かす場を設ける

授業外の学びが授業に生かされることで、子供は自ら学ぶことのよさを実感し、新たな学びへ向かう意欲が高まります。

授業外の学びを生かす場の例

- 授業外での子供の取組を紹介する
- 小テストで授業外の学びの成果を試させる
- 予習で取り組んだことを生かして授業を展開する

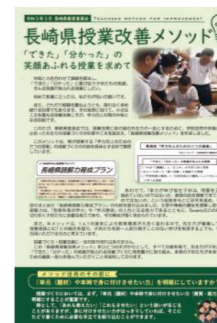
授業外の学びを授業に生かす

逆上がりのコツを、インターネットの動画をみて調べてきたよ。今日の体育の授業では、そのコツを使って逆上がりを練習しよう。



昨日、ニュースをみながら選挙の大切さについて家族で話し合ったよ。今日の授業と関係しているな。

身の回りで使われている単位について調べたよ。算数の授業でみんなに伝えよう。



基本的な授業づくりのポイントについては、『長崎県授業改善メソッド』を活用ください。



○授業の進め方や、学習する際のルール・マナーの共通理解を図りましょう。子供が自ら学びを進めていくためには、一人一人の言動、考え方、学び方などが尊重されることが大切です。

※教室という空間、授業という場が、温かく安心できるものであると、子供たちは生き生きと学びを進めることができます。

学びの土台

- 学習支援ツール等で課題を共有したり提出したりする。
- AIドリル等を用いて予習・復習をする。
- Webサイトで情報収集（調べ学習）をする。
- 文書作成アプリ・プレゼンテーションアプリ等を使ってまとめる。
- ホワイトボードアプリ等で共同編集しながら整理・検討する。

※ICTを活用することで、このようなことが授業でも授業外でも可能となります。

ICT活用